

高知県高岡郡梼原町

梼原町は、町面積の91%を森林が占め、標高1,455メートルに位置する自然豊かな山間の小さな町である。

《概要》

風力発電の事業化に向けて1年かけて調査を実施し、平成11年運用開始した。四国電力に売電し4,500万円ほどの収入がある。現在2,000kwを計画中である。

売電収入は環境基金として、間伐促進、太陽光発電、住宅改修（ペアガラス）支援などに充てている。

森・水・風・光の

自然エネルギーを

無駄なく活用

太陽光発電は150戸約650kw、水力発電は

53kw整備されている。水力発電の電力は、昼は小中教育校の中学棟へ、夜は町の街路灯へ供給している。

ペレット工場を整備し、第三セクターゆすはらペレット(株)が運営し、年間約1,200t生産している。



水力発電施設視察の様子

《所見》

梼原町は、面積の約9割がCO₂の吸収源となる豊富な森林資源を有し、

環境に配慮して適切に管理された森林を活用し、資源の循環利用を行っている。

また、国内でも屈指の風況を誇る四国カルストで2基の風車が環境対策の原資を生み続け、風から得た資金を活用し、太陽光発電など地球に優しいエネルギーを上手く使った機器の普及を図っている。

梼原町の先駆的な事例を踏まえ、下川町においては、森林バイオマスエネルギー導入の経緯・経過をもとに、その目的と有効性を明確化し、取り組みの進化を図る必要がある。

また、森林資源だけではなく地域には雪氷など様々な資源が存在する。

地域資源の掘り起こしを行い、地域資源から最大限の収益を確保し、経済循環を続け安定した経済

社会を築くことが重要である。

小中一貫教育について

《概要》

梼原町では、平成23年度に確かな学力の定着・向上を目指して梼原町小中一貫教育研究推進事業の指定を受け、小中一貫教育校（ゆすはら学園）としてスタートさせ、教育カリキュラム「4・3・2」制、9年間の系統的な教育の構築を目指し取り組んでいる。

小中の教員が同じ目で連続してみることでできる。一人一人の個性を把握し、発達段階に応じたきめ細かな対応ができる。

《所見》

近年、教育カリキュラムにおける現行の「6・3・3」制を見直す動きが広がり、小中一貫教育

や中高一貫教育を導入する地域・学校が増加している。

梼原町の小中一貫教育の調査を踏まえ、下川町としては、先駆的な持続可能な地域づくりを進めるためには、次代を担う人づくりは根幹をなすものであり、魅力ある地域社会の形成には欠くことができないものである。地域の特性に応じた最善の新たな教育システムを確立する必要がある。



小中一貫教育のゆすはら学園